

# ala クルーズ

# イルミネーション2016

冬のなごみ



9月18日第1回イルミネーションプロジェクト会議が開催されました。今回は何を作ろうか?ということでテーマは『冬のなごみ』に決定。そこで童話の『花咲か爺さん』おまけにパロディ彫刻展でおなじみの『放さんか爺』を製作することになりました。華やかさとユーモアありの今年のイルミネーション、年々難しく手が込めます。連日製作に追われ毎晩数人で製作に当たりました。11月26日に設営し振り点灯!「あれえ点いてない」「どこだ?」「そこじゃない?」早速点検「よしOK」準備完了。そして点灯式当日に行われたワークショップ『手作りランプをつくろう』の製作終了後、市内坂戸の大橋優衣花ちゃんのイルミネーション点灯に合わせて一齐にスイッチオン!作品とともに「わぁきれい」「すごい」「去年より素敵、むつかしそう」と歓声が上がりました。寒い夜、空に浮かぶきれいな月とのコントラストがとても似合いました。このイルミネーションは2月13日まで点灯されます。冬の夜のアーラが楽しみです。



## 手作りランプをつくろう

坂戸の大橋優衣花ちゃん



昨年大好評だった、紙粘土とLED電球を使ってオリジナルランプを作るワークショップ『手作りランプをつくろう』が今年も12月10日に開催されました。締め切り前に定員いっぱいになり、65組100人の参加者が楽しみながら製作しました。受付時にキットを受け取りスタッフの説明の後、早速作り始めました。透明のプラスチックカップにLEDライトのキットを使って紙ねんどをかぶせて好きなものを自由にデザイン、色づけして完成。イルミネーションの点灯式に合わせて各自点灯。子ども達の歓声がalaに響き渡っていました。作品は持ち帰り、各家庭で光輝いたことでしょう。子ども達の喜んだ顔を見て、スタッフもやりがいを感じたことと思います。やってよかったと!



# パロディー笑・刻展PART III



8月20日～28日美術ロフトにて笑・刻展PART IIIが開催されました。新作を含め106点が展示され、クスノキのやわらかい木彫作品が、来場者を迎えました。期間中、トリプル台風が発生し、リオ・オリンピックの閉会式がありました。そんな中、alaクルーズは『忘れかけたぬくもり』に触れてもらおうと、笑刻展を企画しました。笑いには人の感情を和ませ、心を豊かにし人を元気にする作用があります。来場者は作品や添えられた言葉に笑ったり、考えたりして楽しい時を過ごしたようです。他の展示を見に来ていて、たまたま立ち寄った方、新聞やチラシを見て足を運ばれた方、仕事場のお客さんに教えてもらった方、毎回楽しみにしていたファンの方など、1,866名が来場されました。



作品は言葉・動物・音楽・妖怪などテーマ別に並べられ、作品層の厚みを感じました。超新作‘赤い靴を掃いてた女の子’は、ほうきで赤い靴を落ち葉のように何足も掃いている作品。おどけた女の子の表情に笑ってしまいます。‘♪今はもう姉’は、よく



見ると化粧をしているのはおねえ（男の人）。それを横で見つめる弟の複雑な表情、立ち止まって時を忘れる作品です。‘ヒ〜ツジギリ’辻斬りのお侍に手を上げてギブアップしている羊。木肌が羊毛のように感じられ、触りたくなくなります。‘木ティーチャー’木でできたキティちゃんも、かわいい…床の間に飾りたくくなります。岩崎祐司（A型）氏の作品には面白さとともに美があります。細部にこだわっており、近くで見ると妙にリアリティがあります。‘アバレルショップ’では女性の口の中の歯が緻密に彫られています。また、作品がどこことなく作者に似ているような気がしたのは私だけでしょうか。頭の体操になったという感想や頭が柔らかいですねという声も寄せられました。現在、作品数が260を超えるそうですが、種はまだまだ、つきないようです。秘策はモノの名前やことわざなどから作品のインスピレーションを得て、思いついたらアイデア帳に書き留めておくというもの。孤高の芸術家は日々、努力を重ねる天才でした。赤いスクーターに乗った坂本龍馬の「リョーマの休日」は今回も展示の目玉。そもそも彫刻のプロではなかった作者がクスノキを3日～1ヶ月かけて作品を生み出すとは…。



彫刻の革命ともいえるのではないのでしょうか。発端は経営する自転車販売店の隣に小さな小屋を建てて作品を並べたことから。少しずつ評判になり、1998年に松坂屋静岡店で初めての個展を開いたそうです。スゴイですね！クスッと笑えるところや深層心理をついたような表現が多くの人に感動を与えています。子どもも笑い転げ、ご年配の方は、スタッフの説明でうなずきながら微笑み、お客様どうして会話も弾みます。三回目となる展示も大好評。見ている私達もいつのまにか顔に笑いじわが刻まれていました。笑いの種を宿して、また少し世の中が和んだ気がします。



準備風景



飾り付け終了



看板も用意



微笑むお客様

アンケート記入



作者岩崎氏の説明風景

ワークショップの様子

「岩崎祐二笑刻展」開催期間中義援金を募りました。

合計金額 22,375円を9月5日「平成28年熊本地震災害義援金」として社会福祉協議会を通じて「日本赤十字社」へ寄付しました。ありがとうございました。

## 東海市芸術劇場視察

10月15日(土)alaクルーズメンバー22名、財団4名は太田川駅に現地集合し東海市芸術劇場を視察しました。この劇場は駅と隣接していて交通の便が良く、近代的建物で、たくさんの人が訪れていました。係りの人に館内を案内していただきました。5階建てのこの施設の大ホールは3階から5階が客席



となっていて、1025名を収容することができ、客席と演者の距離が近くなるよう設計されています。3階には大・中・小の練習室があり合唱・演劇・ダンスなどの練習ができ、移動式バレーバーが設置されている部屋もありました。バンドスタジオ1・2、パフォーマンス室など他にも多様な部屋もあり、稼働率が高いそうでこの日も拝見できない部屋もあり、市民の皆さんの活気を感じました。2階には囀鳴広場と名付けられた学びの広場があり、郷土の偉人で町民・農民に学問を広めた細井平洲先生の人生と業績、作家の童門冬二氏の紹介コーナーや、映像やタブレットを開いてわかりやすく学べる工夫がしてありました。その後、かつて新日本フィルに在籍していた、安江総監督と話をする機会を設けていただきました。安江氏は「可児市文化創造センターには何度かお邪魔して、建物に感激しコンサートに行くたび、alaクルーズの皆さんのお迎えの対応が素晴らしかった」

「私たちがボランティアスタッフを募集するにあたり力を入れたのは、市民が参加するという体裁だけの為のスタッフはいらないと熱意のある人だけを集めました。事業にも運営にも携わって貰っています」と話されました。その後、大ホールで、ダンスで描かれる命と人の繋がり『GIFT』を鑑賞し、感激の中、視察は現地解散となりました。



## フォローアップ研修を終えて

10月9・10日フロントスタッフ研修会が開催されました。alaクルーズに入って早一年が経とうとしていますが、今回フロントスタッフフォローアップ研修を皆さんと共に受ける事となりました。主劇場を使っての現地研修という事で、遅れ客対応と場内監視のやり方を詳しく教えていただきました。基本的な事を一から教わったのは初めてでしたが、各々の約束事にはすべて理由があるという事も分かりました。今まで見よう見まねでなんとなくやって来た事が多かったのですが基本の大切さが良く分かりました。遅れ客対応や場内監視について現地でひとつずつ教えていただいたので、場面毎での不明だった点について確認する事が出来ました。フロント業務を行うにあたってチームワークの必要性や他の人との連携の大切さも良く分かりました。この研修では先生から個人へ質問する事によって一人一人が自分で考える事が必要だという事を解らせようとされていたのだと思いました。今回教えていただいた事を、今後のフロント業務において実践していく事が大切だと思います。しかし、今一番印象に残っているのは、「alaクルーズはみなさん美人」と先生が最後に言われたことです(K)



すみだトリフォニーホールで

## NPO 法人ala クルーズ東京視察研修

12月16日(金)～17日(土)alaクルーズから3名、東京視察研修に参加しました。文学座アトリエ公演・サントリーホール・歌舞伎座・すみだトリフォニーホールを視察してきました。文学座は普段は稽古場としていますが、そのたまたまから歴史の重みのようなものを感じ、サントリーホールも同じように創立者の音楽好きを窺わせるような造りになっていました。歌舞伎座は地方に住む者には縁遠いものでしたが、ここでもやはり古典芸能の味わいを深く感じました。トリフォニーホールはステージについた傷の由来など、興味深い話をたくさん聞くことができました。一番印象的だったのは、プロのフロントスタッフの業務を目の当たりにした時は、立ち居振る舞い、言葉使い、仕草、動きなどです。これらは大変勉強になりました。民間と公共施設の違いはあるかもしれませんが、フロントスタッフとしての接客態度には、共通する部分が多くあると思います。今回の研修を今後に役立てたいと思います。(F)



今年こそはできるだけ広報に貢献したいです。キラリと光る記事を書けるように日頃の行いを良くしていきたいです。クルーズが酉年にあやかって鳥のように羽ばたいていくといいな…(H)

## 今年の抱負



今年は、皆さんの足を引っ張らずに頑張れたらいいな。今年をもっともっと積極的に参加し、楽しみたいと思います。(A)

## 編集後記

この号が発行される時は新年を迎えてますが心新たに迎えた新年、今年こそはと思うのだけれどいつも空振り…そう思って何十年。何事もなく終わればそれが一番だと言い訳しながら、♪時の流れに身を任せ♪口ずさんでます。今年もよい年でありますように。(O)

ala クルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414  
<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>  
Mail : [ala-crews@kpac.or.jp](mailto:ala-crews@kpac.or.jp)

**ala** クルーズ